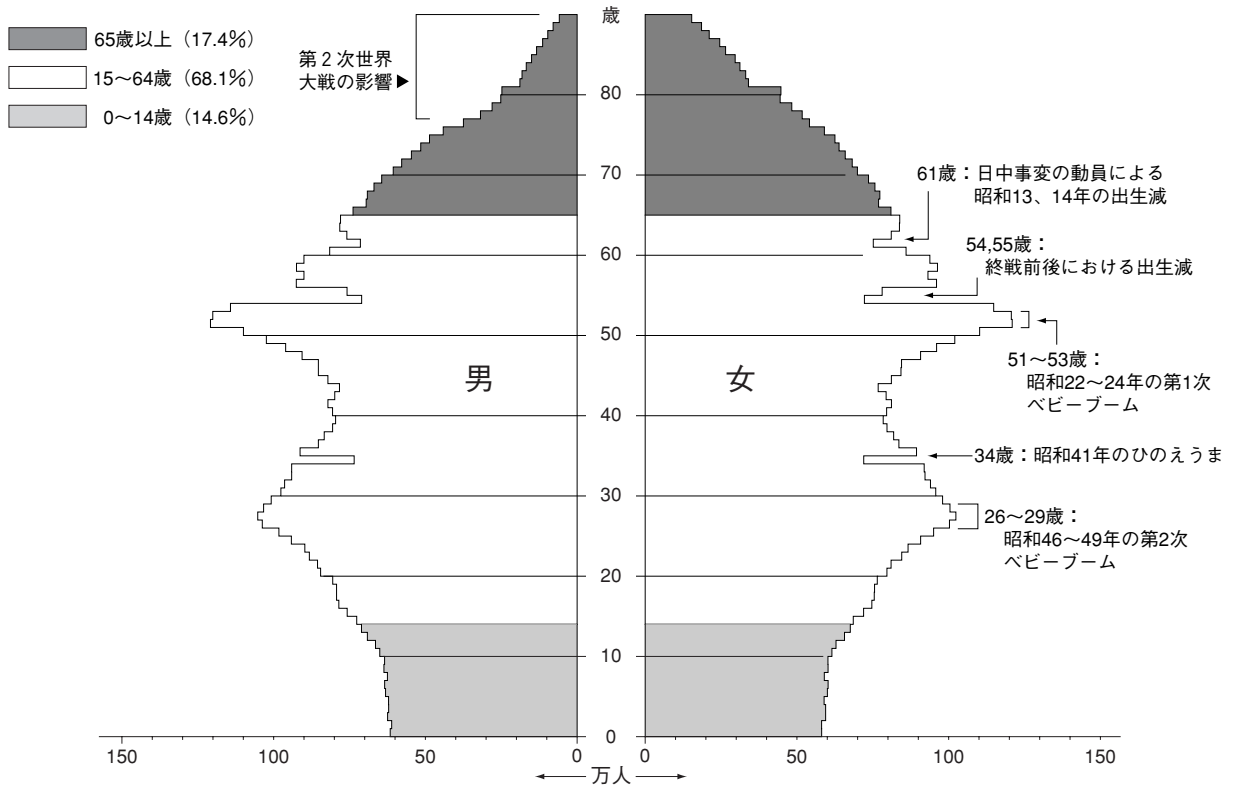


資料室

499 人口動態(1)

平成12年の人口は 1 億2,693万人 増加を続ける老年人口

我が国の人口ピラミッドー平成12年10月 1 日現在ー



総務省統計局の「国勢調査」によれば、平成12年10月1日現在の我が国の総人口（日本に常住している外国人を含む。）は1億2693万人である。

これは、平成11年から12年までの1年間に24万人増加したことになる。

人口の年齢構造をピラミッドに表すと、各年代の社会情勢の影響を受けた出生と死亡の変動が明らかに刻まれている。

戦後の昭和22年から24年生まれの第1次ベビーブーム期と、46年から49年生まれの第2次ベビーブーム期の2つのふくらみが特徴的であり、その

後は出生数の減少でピラミッドのすそは年々狭まり「ひょうたん型」となっている。

総人口の年齢3区分別人口割合の年次推移を見ると、第2次ベビーブーム期以降の出生数の減少傾向と死亡状況の改善による高齢層の増加から、0~14歳の年少人口割合は減少し、65歳以上の老年人口割合の増加は著しく、平成12年は、それぞれ14.6%、17.4%となり平成9年に老年人口が年少人口を上回り、拡大している。15~64歳の生産年齢人口割合は平成4年をピークに減少している。

資料：総務省統計局「平成12年国勢調査」、人口は総人口(年齢不詳按分済み人口)